

令和2年度  
三好中学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 主体的に学習する習慣を身につけさせる学習環境づくり
- 言語活動の充実による思考力・判断力・表現力の育成

学力向上検討委員会構成

- 学力向上推進員 村上 郁代 (1学年主任)
- 委員 尾関英知(校長) 十川道雄(教頭)  
竹谷真人(教務主任) 西尾美佳(3学年主任)  
久保美智子(2学年主任・研修主任)

校長

尾関 英知 印

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業への取り組みは全体的に前向きである。決められたことはきちんと果たすことができる生徒が多い。 ●一部の生徒は基礎的・基本的な知識や技能の習得に支援を要する。県学力ステップアップテストにおいて、県平均を下回る項目がある。	・各教科における基礎的・基本的な知識や技能を身につける。 ・学習の過程で習得した知識・技能を、既習事項と関連づけて、他の学習や生活の場面において活用することができる。	・板書やノート指導、各教科の課題を工夫し、基礎的・基本的な知識・技能を身につけさせる。 ・教員の指導力向上のために、相互に授業参観を行う。 ・朝学習で毎日、英語のリスニング練習や動画視聴を行い、英語のリスニング力向上に努める。	・学習委員会で、毎日の自主勉強によく取り組んでいる生徒のノートを掲示し、反復練習や応用問題に取り組んでいるノートを紹介する。	・各教科の課題やノートをこまめに提出させ、チェックすることができた。 ・オープンクラスウィークを設け、相互に授業参観する機会をもつことができた。 ・毎朝の英語リスニング練習を続けた結果、各学年ともリスニング力が向上した。(英検を使用したの検証結果による)	・タブレットを使って、基礎的・基本的な反復練習ができるようにする。 ・毎朝の学習を、1人1台のタブレットを使って、個に応じた課題を提供できるようにする。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを発表したり、友達の意見をしっかりと聞いたりすることができる生徒は多い。 ●課題に応じて、必要な情報等を取り入れたり、自分の考えをまとめたり、複数の考えから新しい考えを創造したりすることに課題がある。	・自他の意見を比較し、考えを深めることができる。 ・根拠や理由を明確にし、自分の考えをまとめ、自分の言葉で相手に伝えることができる。	・生徒が興味をもって学習に取り組めるように発問を工夫する。また、生徒の発言や発表の内容に応じ、「なぜ」「どうして」などの更なる発問を行い、生徒の考えを深めさせる。 ・ホワイトボードを活用し、個々の生徒が考えをまとめたり、表現をしやすい場面設定を工夫する。	・「まなボード」を購入し、各学年で有効活用する。 ・タブレット等のICTを活用した授業方法について、全職員で研修する機会をもつ。	・各教科で、ペア学習での意見交換やグループでの話し合いを多く取り入れ、思考の深化と発展を促す学習をすることができた。 ・郡市人権教育研究大会や各研究授業で、ホワイトボード・まなボード・タブレット等を用いての話し合い活動をさせる場面設定を工夫することができ、全職員で研修する機会をもてた。	・「徳島県 GIGA スクール構想」がスタートするにあたり、全職員で研修を行い、生徒の思考力・判断力・表現力等の育成を図る。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○落ち着いたある態度で学習に取り組む、与えられた課題はきちんと仕上げることができる生徒が多い。 ●メディアの使用時間の長い生徒が多く、家庭学習の習慣が身につけていない。	・家庭学習の時間を確保し、根気よく継続して取り組むことができる。 ・自分の学習状況をしっかりと振り返り、自らの課題を解決できるよう計画を立て、実践することができる。 ・授業に真剣に取り組む、わからないことは教師や友達に質問することができる。	・学習プリントコーナーや質問教室を開き、自己選択により主体的に学習に取り組む場面を設定する。 ・授業のはじめには、本時の目標を提示し、授業の終わりには振り返りの時間を設定する。 ・「学習の手引き」を使用し、各教科の学習のしかたについて指導する。	・定期テスト前には、自らの課題を解決できるよう計画を立てさせる。	・廊下に高校入試問題などの学習プリントコーナーを設置したり、放課後の特別補習などを行ったりして、主体的に学習に取り組む場面を設定できた。 ・定期テスト前に、学習計画表を作成し、計画的に学習するよう指導できた。 ・「本時の目標」「教科書P.」「ノートP.」「まとめ」などのカードを全教室に設置し、全ての教科で活用することで、学校全体で授業スタイルのシステム化を図ることができた。	・徳島県学力向上確認プリントを各学年・各教科でさらに有効活用していく。 ・家庭で、家庭学習やメディアなど、時間やきまりを守った生活ができている生徒を75%以上にする。(今年度68%) ・授業中、分からないことがあれば先生に質問している生徒を65%以上にする。(今年度50%)

令和2年度 学力向上ロードマップ

